

第3回大山崎町男女共同参画計画懇話会 議事録

日 時

平成 29 年 3 月 23 日 (木)

開会 午後 1 時 30 分 閉会 午後 2 時 35 分

場 所

大山崎町役場 3 階 中会議室

議 事

- 1 前回懇話会以降の経緯 (パブリック・コメントについて)
- 2 大山崎町第 3 次男女共同参画計画 (案) 及びその概要版 (案) について
- 3 その他

出席委員

委 員	石 田 由 紀 子
委 員	石 原 祐 次
委 員	上 田 幸 代
委 員	幸 山 由 佳
委 員	篠 田 清 子
委 員	津 田 庸 子
委 員	濱 田 浩 志
委 員	林 俊 介

事務局

教育長、生涯学習課長、生涯学習・スポーツ振興係長、
生涯学習・スポーツ振興係員

議 事 内 容

- 1 前回懇話会（平成 29 年 2 月 2 日）以降の経緯
 - ・大山崎町第 3 次男女共同参画計画（案）パブリックコメントの募集の実施
募集期間 3 月 1 日～3 月 15 日
- 2 大山崎町第 3 次男女共同参画計画（案）及びその概要版（案）について
（事務局から説明）

意見交流

- <委員> 懇話会の意見をまとめていただき、大変勉強になります。
先月、美容院で 30 歳代の男性と話す機会がありましたが、「男女共同参画」についてご存知ないようで驚きました。このことが全てではないと思いますが、実は、「男女共同参画」を知らない若い人が多数いらっしゃるのではないかと思います。「男女共同参画」が地域住民に周知されるよう、啓発が必要だと感じます。私は、懇話会をきっかけとして「男女共同参画」についての関心が高まりました。
- <委員> これまで 2 回の懇話会に参加し、計画（案）を読ませていただく中で、「男女共同参画」についての意識が随分変わってきました。「男女共同参画」の取り組みは、家庭によって出来ていたり、そうでなかったりしますが、結局は人間同士の問題に思います。自分が一番反省したことは、「男女共同参画」意識を持って社会を見なくてはならないということです。そうすることで、おかしい部分に気づき、前に進むことが出来るのではないかと思います。
「男女共同参画」を「字」で書くと難しく感じますが、「生き方」や「人格」、「人権」が表現されているように思います。
- <委員> 懇話会で出された意見が計画に反映されて良かったと感じます。
他市町の仲間と「男女共同参画」について話すことがありましたが、あまり知られていないように感じました。もっと広めていかなくは、もったいないと思います。これから、年代や町の内外を問わず「男女共同参画」を広めていきたいと思います。
- <委員> 計画（案）の中の、防災時の男女共同参画の取り組みについて印象に残っています。それは、熊本の友人から「避難所での暴力被害」について、そういうことがあると聞いていたからです。男女の不平等が、そう

いうときに表れてしまうのかなと思いました。

今年度は、町内会の長として防災の班長になりましたが、女性や子ども、弱い立場の方に配慮しなくてはと思います。

<委員> 計画の中に懇話会の意見が反映されて、とても良くなったと感じました。

自分自身が子育て支援に関わる中で感じることは、子育てに関する冊子にママが出てくることが多く、パパが出てこないことです。まだまだ家庭内の「男女共同参画」は遠い道のりだと感じます。

また、「性的マイノリティー」について計画に盛り込まれた点については良かったと思いますが、基本方針7の取り組み内容の中で、「男女の性」という記述は「多様な性」としてはどうかと思います。

そのほか、どちらかといえば計画の概要版を手にとられる方が多いのではないかと思います。「性的指向」や「性自認」についても記載してはどうかと思います。

<委員> 「男女共同参画」の取り組みは、これまで女性の権利が認められてこなかった経過があり、「性的マイノリティー」に関しては、この6年間で認識が広がってきたことによるものと思います。これからこの取り組みが広がってくると、「男女」という名称も変わってくるのかも知れませんね。今はまだ、社会が性差による配慮について成熟していないということなのでしょう。

<委員> この計画を多くの人に読んで頂きたいと思いました。

私たちの世代は、「男女共同参画」というものを教育で受けてきており、多くの30代のパパやママは、子育ての協働に対して意識が高いように思います。私自身、男性が子どもを病院へ連れて行くことや、保育所の送り迎えをしていることについて、全く違和感はありません。

仕事をする中では、男性が1年間育児休暇を取得すれば、周囲は「すごいね!」となり、それに対して「なんでそんなことをするの」という嫌な雰囲気にはなりません。しかし、「自分達は出来ないよね」となるように思います。いいことだという意識はありますが、自分達のこととしては捉えられず、意識と行動に差があると感じます。

また、私たちの親世代は、保育所の役員会や送り迎えについて「ママを手伝ってあげなきゃ」と言います。本来は、「手伝ってあげなきゃ」ではなく「一緒にやっていく」ことだと思います。「本来ママがすべきことを、やってあげる」という意識なのかなと感じます。

これから、計画の理念を多くの方に周知することで、多くの方にとって、「男女共同参画」が当たり前のことになることを望みます。

<委員> これまでの意見から感じたことは、学校の教育が非常に大事だということです。教育についての責任の重さを感じています。子ども達には知らないことを教えていかななくてはなりません。「LGBT」についての講演会を実施しましたが、大人より子ども達のほうが柔軟で理解もしています。感想を読ませてもらいましたが、大変感心しました。

前回の懇話会の意見を短期間で記述に反映され、素晴らしいことに思います。

子ども達には、お互いの良さを認め合いながら協力していくことが大切だということを、教えていきたいと思います。学校教育の重要性を痛感いたします。また、このことを自分だけではなく先生方にも伝えていくことが、我々の役割かと思えます。

<委員> 学校だけに押し付けず、我々親も共にやっていく姿勢が一番重要で、それによって、差別やイジメ、自殺等の減少に繋がっていくことに思います。

なお、この場でも出された意見の計画への反映については、事務局に一任したいと思います。よろしいでしょうか。

* 本件については承認されました。

3 その他

- ・特記なし

4 今後の予定等について

(事務局から説明)

- ・計画（完成版）の町ホームページへの掲載と関係者への送付
- ・計画の進捗状況の実績調査及び把握、公表

5 閉 会